

ラベルバンク新聞

発行所
株式会社ラベルバンク
大阪市淀川区西中島 5-12-8
新大阪ローズビル 4F
TEL: 06-6838-7090
FAX: 06-6838-7091
<http://label-bank.co.jp/>
support@label-bank.co.jp

第90号

2016年6月23日、消費者庁より「食品表示の適正化に向けた取組について」が発表されました。定例の監視指導と啓発活動の一環ですが、その項目のなかに「グルテンフリー」がありましたので、今回のコラムでとりあげてみようと思います。

表示の適正化等に向けた重点的な取組の概要

消費者庁から発表されている表示に関する取組のうち、「輸入食品のアレルギ表示の徹底について」の概要は以下のとおりです。

『近年、海外から米粉等を使用した「グルテンフリー」と表示された加工食品が輸入されているが、欧米諸国における「グルテンフリー」表示と、我が国における食品表示基準に基づくアレルギ表示とは基準が異なることに鑑み、原材料におけるアレルギの混入状況を十分確認の上、適切なアレルギ表示を行うよう啓発パンフレット(別添2)等を活用し、輸入者等の食品関連事業者に対し周知啓発を図る。』

輸入食品の「グルテンフリー」表示について

輸入業者への啓発内容について

輸入事業者向けの啓発パンフレットも発表されています。内容は以下のとおりです。

- ・EUやアメリカ等における「グルテンフリー表示」と、日本の「アレルギ表示」とは基準が異なります。
- ・原材料におけるアレルギの状況を十分確認のうえ、適切なアレルギ表示を行ってください。
- ・小麦アレルギを含む食品に「グルテンフリー」と強調した表示をしたときには、消費者が小麦アレルギが含まれていないと判断すると考えられることから、景品表示法等の規制上、問題となるおそれがあります。

EU・アメリカ等のグルテンフリー表示

・セリアック病の人の商品選択に資する観点から、「グルテンフリー」表示が可能。表示する際は、グルテン濃度が20ppm以下。

国内のアレルギ表示

・食物アレルギが、ごく微量のアレルギによって引き起こされることがある。



るため、小麦などの特定原材料を含む食品にあつては、原材料としての使用の意図にかかわらず、原則、当該特定原材料を含む旨を表示する必要があります。

- ・数ppm以上の小麦総たんばく量を含む状況であれば、容器包装に小麦のアレルギ表示をしなければならぬ。
- ・混入の可能性が排除できない場合には、食物アレルギ疾病を有する者に対する注意喚起表記を推奨。

「フリー」と「不使用」は異なる

パンフレットにはQ&Aも掲載されていますが、食品表示担当者向けの内容となっています。食品を輸入することが初めての方に向け、過去のコラム「アレルギンフリーについて」より追記してみます。

パッケージの文言を考えるとときにおそろく分りにくいのが、「フリー」と「不使用」の言葉の違いかと思えます。この2つは厳密には異なる用語なので、その違いを知っておくことは事故を起こさないためにも大切だと言えます。「○○フリー」ではなく、「ある特定原材料(アレルギン)を使用せずに作りました」と

いった表示については、食品表示基準Q&Aに、参考になる記載があります。

(E-22) 特定の特定原材料等を使用していない旨の表示があれば、当該特定原材料等が含まれていないと考えてよいですか。
(答) 「使用していない」旨の表示は、必ずしも「含んでいない」ことを意味するものではありません。

混入と製品分析

また、パンフレット内にも記載のある「混入(コンタミネーション)表示例は「本製品の製造ラインでは、小麦を使用した製品を製造しています」等」の問題も大切です。

「混入だから微量なのでは? 微量だから体に影響ないのでは?」と考えることは正しくありません。実際に、混入した製品を分析してみると、数十ppm(数十ppmではなく)検出されることもあります。「意図せずして」混入しているため、その濃度のコントロールは難しいということだと思います。

グルテンフリーのようなアレルギンの強調表示をされる方にとっては、「混入(コンタミネーション)の確認」は大切です。そうした食品を必要とする消費者に適切な情報提供ができるよう、原材料の再確認と定期的な製品分析など、安全について今一度考えてみる機会にできればと思います。(川合)

参照: 食品表示の適正化に向けた取組について(消費者庁)

http://www.cao.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/pdf/160623_pressrelease_0003.pdf



14期目を迎えることができました。

ラベルバンクは、この7月から14期目を迎えることになりました。
これもみなさまのおかげと深く感謝しております。今後もみなさまの信頼にお応えできるよう、スタッフ一丸となって頑張ってまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

おかげさまで、株式会社ラベルバンクは第十四期を迎えることができました。これも、弊社を支えてくださる皆さまのおかげです。いつも、ありがとうございます。

さて、弊社では昨年に比べて社員数が増えましたが、随分にごやかりになりました。全員、食品表示に関する業務に携わるのですが、その背景も得意分野もいろいろです。国籍や文化、嗜好の違いはあっても、仕事を一緒に取り組めるのはよいことだと思います。

また弊社とお付き合いくださる方の仕事内容も、その取扱商品もいろいろです。

新しい素材や技術、新しい食べ方など様々な食品に関わることは、より多くの勉強を必要とします。

私たちは、本当に多様性の時代に生きているということを実感しておりますので、

そうした時代の社会にとって、大切な仕事は何かを常に問い続けていきたいと考えております。今後とも、お付き合いのほどよくお願い申し上げます。
(川合)

●大阪本社

ここ最近数年で、食品分野でも様々な文化の交わりを感じる機会が増えました。この感覚をフルに活かせるように、より一層の努力をしてみたいと思います。
(井上)

食べる事はもちろん、食事をする空間も好きで、一人でカフェに出かけたりします。仕事においても、食そのものの情報だけでなく、あらゆる側面から考えられる視点を大切にしていければと思います。
(清水)

こんにちは。最近、和と洋が見事に融合された古典の舞台を観て感激しました。食品サイトにおいても、グローバルな融合されたデザインというのは何かを考えていきたいと思えます。
(亀井)

初めまして！食を通じて、色々な国の人々と触れ合うのが大好きです。これからのボーダーレスの時代、ますます豊かになる日本の食の安全に少しでも貢献出来ればと思います。
(亀山)

Bonjour! 実は初めて日本食を味わったきっかけは母国（フランス）にあったのです。世界中に食に関する情報を扱う方々がいるからこそ、その機会が得られました。これからその目的に努めたいと思います。
(ヤン)

よろしくお願いします。仕事では毎回数値目標を立て1つずつクリアしていき成果を出したいと思えます。個人的には英語力アップなど少し後回しにしていたことに挑戦していきます！
(山口)

●東京オフィス

仕事を通じてさまざまな食品を知り、これまでに以上に食の楽しさを感じることが多くなりました。食品そのものについての知見もさらに広げていければと思います。
(齊藤)

食品表示の魅力はなんといっても奥深さ。さまざまな食品表示を目にすることができ、ますます魅了されています。表示を鳥の目、虫の目でみる力を養えるよう精進していきたいと思えます。
(武川)

異国料理を試すことが好きです。仕事で色々な国の食情報に触れて、楽しんでいきます。食品表示の仕事で少しでも、世界中の食品が交流できるよう力になればと思います。
(黄)

今月の「お気に入り」言葉

Life is infinitely stranger than anything which the mind of man could invent.

人生というのは、人間が頭の中で考えるどんなことよりも、はるかに不思議なものだ。

(Sherlock Holmes シャーロック・ホームズ)